

2016年 スウェーデン・マルメ研修 に参加して

2012年 PHIJ オマハ～ヒューストン研修に参加させていただき、海外の歯科医療に直接触れることの大切さを感じました。その頃からの念願だった、スウェーデン・マルメ研修に参加することができました。

同じ考えを持った歯科医師・歯科衛生士と一緒に学ぶ事は、とても勉強になり、また刺激もたくさんもらいました。

講義の中で感じたのは、日本の口腔衛生状態は良くはなっているものの、スウェーデンと大きく差をつけられてしまっているという事実でした。

患者さん一人一人のリスクに向き合い、それぞれのリスクに対応していく事の大切さを改めて感じました。

残念ながら日本では歯科医師、歯科衛生士ともに国家試験に合格するための教育を受けているために、患者さんの口腔内をどうやって守っていくのか、考えることを学んでいません。患者さんひとりひとりに、今の状態はどうなのか、なぜそのような状態になってしまったのか、どうしていけば歯を失わずにすむのか、しっかり説明ができない歯科医院ばかりだと思います。

治療に時間をかけることも必要ですが、それ以上に患者さんのリスクに向き合い、しっかりと説明する時間を取れるような診療体系を作っていきたいと思います。

また、歯科衛生士の社会的地位も高いと感じました。ヒューストン研修でも感じましたが、歯科衛生士が自立し、診療を行っていることも重要だと思います。

日本では、歯科医師の指示のもと歯科衛生士が治療の補助をするというのが一般的だと思います。そうではなく、歯科医師と歯科衛生士は対等の立場から、同じ考えのもとで患者さんひとりひとりのリスクにそれぞれの立場から意見を出し合い、治療方針を決めること。なによりも、予防の主役は歯科衛生士であること。歯科医院のスタッフ全員でチームとなり、患者さんに向き合っていける医院を創って行きたいと思います。